

## 第3回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和2年1月31日（水）14:00～15:40

2 場 所 置賜総合文化センター 203研修室

3 出席委員

尾形健明会長、相田哲郎委員、赤井直美委員、大和田浩子委員、鹿俣貴裕委員、小関洋子委員、佐藤和子委員、白石祥和委員、須藤昌志委員、須藤正彦委員、清野雅好委員、長谷川健委員、松田智博委員、吉澤彰浩委員、渡邊修一委員、以上15名

（柴田正孝委員、高澤由美委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、市民環境部長、健康福祉部長、建設部長、上下水道部長、市病事務局長、教育管理部長、教育指導部長、会計管理者、議会事務局長、米沢ブランド戦略課長

（企画調整部長は欠席、産業部長欠席により米沢ブランド戦略課長代理出席）

総合政策課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議録

（1）開会

（2）副市長あいさつ（要旨）

副市長 皆様こんにちは。昨日から香港フェンシングチームが米沢に滞在し、市役所で歓迎会を実施した。香港の若い人達に雪を見せたいと思って連れてきたものの、今年は雪が全くなくてがっかりしている。今回、香港の人達が温泉やスキーに対する憧れを持っていることが分かった。そういった点でも、温泉やスキー場が充実している米沢は魅力的なところだと思う。今回の審議会では、アンケートや、まちづくりフォーラムでの市民意見を報告するので、皆さんの忌憚のない意見をもらいたい。

（3）会長あいさつ（要旨）

会長 雪がないのは、地球温暖化の影響もあるかと思う。年が明けて、新型コロナウイルスの流行が始まり、米沢の人口が8万人を切ったというような暗いニュースも入ってきた。そんな中だが、後期基本計画策定に向けて、明るい米沢を目指して皆様と一緒に力を合わせていきたい。

（4）議事

事務局 審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となることとされているため、尾形会長に議長をお願いしたい。

会長 それでは、議事に入る。本日の会議については、午後3時半くらいまでには終了したいと考えているため、委員の皆様のご協力をお願いする。はじめに（1）の市民・高校生・転出者アンケート結果について、事務局から説明願う。

事務局 資料1「米沢市まちづくり総合計画 基本計画改定に向けたアンケート調査集計結果概要」に基づき説明

- (1P) アンケートは、18歳以上の市民3,000人、市内大学に在学する最終学年の学生全員・市内高校に在学する高校3年生全員、本市から転出し、半年以上が経過した22～35歳の転出者を対象に実施。転出者については、前回の審議会意見を踏まえ対象年齢を変更した。
- 回収率は、市民40.3%、大学生29.7%、高校生93.9%、転出者27.8%
- (2P) 暮らしの満足度（幸福度）は、10点満点中5点～8点をつけた人が多く、全体の約7割となっている。平均値は、市民5.84、大学生5.58、高校生6.54である。
- 満足度（幸福度）を判断するうえで重視した点は、市民では、「家計の状況」、「健康状態」、「家族関係」が多い。大学生・高校生は、「家族関係」を除きほぼ同じ傾向にあり、「自由な時間」、「充実した余暇」、「友人関係」が上位を占める。全体的に、「精神的なゆとり」も上位となっている。
- (3P) 特に大事だと思う分野は、「健康」、「安全安心」、「便利さ」が上位を占め、特に大学生では、「便利さ」が突出している。
- (4P) 将来の暮らしについての悩みや不安は、「収入・家計に関すること」が1位であり、市民は、「自分・家族の健康」や「介護や医療」を重視し、大学生・高校生は、「就職に関すること」に悩みや不安を感じている。
- 米沢市が暮らしやすいまちであると思うかについては、市民・高校生は「どちらかという暮らしやすい」という意見が多いが、大学生は、「どちらかといえば暮らしにくい」という意見が多い。大学生は、回答者の78%程度が県外出身だったため、暮らしにくいと感じたのではないか。
- 暮らしやすい理由は、災害が少ない、自然が豊か・環境が良い、治安が良いというのが多い。暮らしにくい理由は、雪が多い、除雪が大変、公共交通機関の便が悪く、車がないと不便、子どもが遊べる施設が少ない、商業施設が少ないというのが多い。
- (5P) 米沢市への定住意向については、市民の約8割「当分住むつもり」という回答であった。大学・高校生は「仕事・学校等の事情」で転居する意向が多いが、大学生に比べ高校生の方が若干定住意向は強い。
- 住み続けたい理由としては、自然環境、治安が良い、両親等が市内に住んでいるなどの理由が多いが、特に転居したいところがないという意見も多い。転居したい理由としては、買い物や生活に不便、交通の便が悪いという意見が多い。
- (6～7P) 普段の暮らしで感じることでは、7P下に掲載した全22項目に対し、どのように感じているかを調査した。市民・高校生・大学生共に、「日常的な買い物は市内でしている」、「自然の豊かさを実感して生活している」、「自分自身は、現在健康である」などが「そう思う」の上位項目となっている。「そう思わない」上位項目としては、「自身はまちづくりを担う一員と感じる」、「市外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思う」などがあげられており、まちづくりに対する当事者意識や、シビックプライドが薄く、市政との距離を感じていることが伺える。
- (8～14P) 満足度・重要度調査については、現行のまちづくり総合計画（前期基本計画）の6つの基本目標に合わせて、市民の施策への満足度と重要度を調査した。平均値は、満足度が2.96点で若干不満、重要度は、4.02点で比較的重要という結果となった。9P目以降、総合計画の基本目標ごとに、各施策項目の重要度・満足度を表示したグラフを

掲載している。これは、平均値に対し、各施策項目がどのようにずれているかを示したもので、平均値に対し、満足度が低く重要度が高ければ、改善が必要であると考えられる。1章の基本目標では、「安定した雇用と働きやすい環境づくりの推進」、「活力ある商工業の振興」が、該当する。

- 2章の基本目標では、「子どもたちが健やかに成長する環境づくりの推進」が、満足度・重要度が平均値より高い。これは、現行の施策を引き続き継続実施することが求められていると考えられる。
- 3章の基本目標では、「適切な医療を受けられる環境の整備」、「誰もが元気で健やかに暮らせるまちづくりの推進」が満足度・重要度が共に高い。一方、重要度は高いが満足度が低い施策として「誰もが自立を目指せる環境の整備」、「社会保障制度の安定運営」が挙げられている。
- 4章の基本目標では、重要度は高いが満足度が低い施策として「利便性の高い道路・交通網の整備」が挙がっており、重要度と満足度の評価が共に高い施策としては、「安全な水の供給と水環境の保全の推進」、「環境にやさしいまちづくりの推進」が挙げられている。
- 5章の基本目標では、重要度は高いが満足度が低い施策として、「冬期も安全安心に暮らせるまちづくりの推進」が挙げられている一方、「いざというときに備えるまちづくりの推進」は、重要度と満足度が共に高い。
- 6章の基本目標では、いずれの施策の重要度も全施策の平均値を下回っており、重要度と満足度の評価が共に低い施策として「ともに協力し合い、行動するまちづくりの推進」、「男女共同参画の推進」、「健全な行政経営の推進」が挙げられている。
- (15P) 大学生・高校生向けに将来の働き方・暮らし方について調査したものをまとめたもの。就職を希望する場所は、大学生の約9割、高校生の約6割が「市外」に就職を希望している。その理由としては、「希望する就職先の企業がある」、「生活する上で利便性が高い」という回答が4割を超え、「自分の出身地」という理由が約3割を占めた。
- (16P) 仕事・就職先を選択する上で重視することとしては、「給与」、「休みの日数」、「仕事の内容・やりがい」といった項目が上位を占めている。将来、就職先を決める際に重視することとしては、大学生・高校生ともに「自分が興味のある仕事ができる」、「安定している」が上位を占め、高校生では、「自分の夢を実現できる」という回答も上位になった。
- (17P) 若者が米沢市で働くために必要なものとしては、大学生・高校生ともに、「若者にとってやりがいのある仕事の創出」「賃金・給与などの待遇改善」が上位を占めた。
- (18P) 卒業後の米沢市への定住意向については、大学生の8割以上、高校生の約4割が「住まないつもり」と回答した。その理由としては、「希望する就職先がないから」、「他の地域の方が暮らすのに便利そう」、「米沢市に執着がない」が上位を占めた。また大学生においては、「公共交通が不便」という意見が多かった。
- (19P) 暮らすまちを検討する際に重視することとしては、「公共交通の便が良い」、「治安が良く、災害が少ない」、「商店や商業施設の充実度」が上位を占めた。また大学生に対してのみ質問したUターン、移住・定住促進に当たり力を入れるべき支援では、「商業施設の誘致」、「子育て世代への支援」、「転入者に対する支援」が上位項目となってい

る。

- (20P) 転出者に対し、将来のUターン、米沢市との関わりについて調査した結果をまとめたもの。転出した理由としては、「就職」、「転勤」が多く、女性の転出理由では、「結婚」も多い。
- (21P) 転出後における本市に対する印象変化を質問したところ、「良くなった」が4割、「変わらない」が5割という結果となった。また、本市に対する愛着については、7割以上の方が、「愛着がある」と回答した。
- (22P) 米沢市と転出先を比較し、どちらの環境が良いかを質問したところ、米沢市のほうが良い項目としては、「自然環境」や「治安」、現在住んでいる地域の方が良い項目としては、「買い物の利便性」、「娯楽環境」、「市内移動の利便性」が挙げられた。
- (23～24P) 将来のUターンについては、「大いに関心がある」、「まあまあ関心がある」という回答は約2割で、「あまり関心がない」、「まったく関心がない」という回答は5割であった。本市へのUターンを検討する場合に期待するサポートとしては、「住宅の取得等に係る経済的な支援」や「就職への支援」、「住宅情報の提供」などが5割程度を占めている。再び本市で暮らす際に不安なこととしては、約7割が「降雪量の多さ」を挙げ、「就職・転職先の確保」、「収入の減少」、「公共交通機関が不便」という理由が続いた。特に、首都圏への転出者に関しては、「降雪量の多さ」よりも「収入の減少」を不安視する傾向にある。
- (25P) 転出後に本市を訪れているかどうかを質問したところ、約8割の方が「訪れている」という回答だった。訪問以外の本市との関わりについては、「定期的に親類や友人等に連絡をとっている」が約6割を占める。一方、「特に米沢市と関わる機会はない」が約2割を占めている。

会 長 　　今回は、議題ごとに、まず質問のみいただき、意見は全議題について最後にまとめて発表してもらいたい。質問はあるか。

会 長 　　アンケートの内容・項目については、どのように作成したのか。

事務局 　　他の自治体アンケートも参考に、基本的には事務局で作成した。

委 員 　　大学生アンケート対象者の8割は、県外の方という理解でいいのか。

事務局 　　そのとおり。

会 長 　　他に質問がないようなので、議題(2)「よねざわまちづくりフォーラムについて」事務局から説明をお願いします。

事務局 　　資料2「よねざわまちづくりフォーラムについて」に基づき説明

- (1～2P) 11名の公募者と、各種団体からの推薦者26名に加え、市の職員プロジェクトチーム18名の全55名で、全4回実施した。総合計画の基本目標に合わせた「産業経済」「教育学習」「健康福祉」「生活環境」「社会基盤その他」の5班に分かれて意見交換をしてもらった。
- (3P以降) 各班の意見については、各班で作成した発表用の模造紙をまとめた内容となっているため、読みづらい部分もあるが了承いただきたい。4回目のまちづくりフォーラムにおいて、各班に解決すべき3つの課題と、課題解決のための取組を発表してもら

った。

- 産業経済分野班では、「米沢の魅力が伝わる情報発信」「米沢の魅力が感じられる環境づくり」「魅力的な雇用の創出」が重要課題として挙げられた。(各課題解決への取り組みについても読み上げて説明)
- 教育学習分野では、「子ども達が健やかに成長できる環境づくりの推進」、「大学と連携した学園都市の推進」、「多様な文化とつながり、交流するまちづくりの推進」が重要課題として挙げられている。3つの課題解決への共通取組として、イベントやお祭りを積極的に活用するという意見が出た。子どもも、学生も、外国人も含めた全ての市民が主体的に参加・開催できるイベントを実施することで、将来を担う子ども達が、米沢への愛着を育み、米沢に住み続けてもらうことができるのではないかという意見であった。
- 健康福祉分野班では、「子育て支援」、「支え合いのまちづくり」「健康長寿」が優先課題として挙げられている。(各課題解決への取り組みについても読み上げて説明)
- 生活環境分野班では、「住環境」「情報通信」「道路・交通環境」が優先課題として挙げられている。(各課題解決への取り組みについても読み上げて説明)
- 社会基盤・その他分野班では、「冬期も安全安心に暮らせるまちづくり」、「いざという時に備える防災意識の向上」「普段から安全を心がける」が優先課題として挙げられている。(各課題解決への取り組みについても読み上げて説明)
- まちづくりフォーラムでいただいた意見については、できる限り後期基本計画に反映させられるよう、今後検討していきたい。

会 長 市民アンケート結果で、重要度満足度が共に高い施策（今後も継続して実施することが求められていると考えられる施策）に対し、まちづくりフォーラムで意見があったものはあるか。

事務局 まちづくりフォーラムでは、重要度が高く、満足度が低い施策（今後、改善が求められていると考えられる施策）に対しての意見がほとんどであった。

会 長 他に質問がないので、議題（3）「後期5箇年間におけるまちづくりの視点」について事務局から説明をお願いします。

事務局 資料3「後期5箇年間におけるまちづくりの視点について」に基づき説明

- 前回の審議会で示した原案に、審議会で委員の皆様からいただいた意見を反映させたものとなっている。変更になった部分は、下線が引かれている。
- 子育て支援について、「屋内遊戯施設」を追加した。
- 健康寿命の延伸について、「身体と心の健康、フレイル予防、食生活、運動等」を追加した。
- 人口減少について、「企業誘致（災害に強いまちをPR）」「商業施設の充実」を追加した。
- 持続可能なまちづくりについて、「公共交通 地域公共交通網形成計画」を追加した。
- 本日、事前に配布していた資料3を差し替えたものを配布した。差し替え版では、裏面にフレイルの用語解説を追加した。

会 長 これまでの議題で、何か意見はあるか。

委員 貴重なアンケートとりまとめに感謝する。今回のアンケート結果を見て、やはり雇用が最重要問題だと感じる。雇用問題のキーワードの1つである「収入」については、学生や親世代が勘違いしていることがある。実質収入は、都会に暮らした方が少なくなる。住宅費で3,000万円、教育費では、私立に入れば2~3,000万円程余計にかかってしまう。私と同年代の人達は、子供を都会に出してしまい後悔している人が多いようだ。そういった点を、教育現場で伝えていくことが重要だ。雇用問題のキーワード2つ目として、「安定」があげられるが、それには正規雇用化を進めることが重要だ。雇用が安定し、収入が安定しなければ結婚にも結び付かない。本市でも正規雇用化を進めていかなければ、若者に残ってもらえないと思う。3番目のキーワードとしては、「仕事のやりがい」がある。工業分野でいうと、本市には、製品に近い開発が少なく、デバイスや部品、生産技術の設計等の仕事が多いようだ。製造に近い設計や生産技術は、やりがいのある仕事だということを企業側が情報発信していくことが大切だ。

また、本市の降雪量がいつも問題として挙げられているが、都会の満員電車に比べれば、はるかに楽であることも伝えておきたい。

会長 校長を務めている産業技術短期大学のパンフレットでも、田舎に暮らした方が、経済的ゆとりがあることを記載して、地元就職を勧めている。

委員 アンケート結果から分かった事と、どのようなまちにすべきかということについて、私の意見を伝えたい。アンケート結果から明確になったのは、人口減少がやむを得ないまちであるということだ。本市の悪いところである仕事や遊び場不足、交通の便、雪といったことが、人口流出につながっているようだ。本市は、車がないと生活できないまちになってしまっている。車のローンなども含めると、自動車関係費用として月3万~5万がかかってしまう。初任給から自動車関係費用を差し引けば、可処分所得が少なくなるため、若者は都会へ出て行ってしまうのではないか。また、有事発生の事態を想定することも重要だ。中東情勢が悪化しガソリンが高騰した時、市民が生活を維持できるか疑問だ。車がないと生活できないまちではいけないと思う。

委員 フォーラム等で子育て支援についての意見も出ていたようだが、私は、子育て支援だけでなく、女性が妊娠できるような環境づくりやサポートも大切だと考えている。市で不妊治療助成金を出してもらっているが、不妊治療の経済的負担は非常に大きく、子供を持つことをあきらめる夫婦が多くなっている実態だ。女性が妊娠しやすい、治療に行きやすいといった支援が、出生率の向上にもつながると思う。

会長 不妊治療については、前期基本計画にも盛り込まれていたようだが。

健康福祉部長 不妊治療については、助成金等によりサポートしているものの、やはりその精神的・経済的負担が大きいことについては、現状として把握している。

委員 子育て支援は取り組みやすいのだが、妊娠ができるような支援についても考えて欲しい。制度だけでなく、市として積極的に取り組んで欲しい。

委員 全国的に、結婚した女性の出生率は、昔と比べて変わらないという調査もあるようだ。米沢での現状はどうか。

- 事務局 女性全体の出生率データはあるが、結婚した女性に絞った出生率のデータは、特にとっていない。
- 委員 全国的には、婚姻率が下がったことにより、出生率が下がっている傾向にあるようなので、本市の現状データが必要かと思う。
- 事務局 市内婚姻率については把握している。結婚した人の出生率といった細かなデータはないが、関連したデータがないかを調査してみたい。
- 会長 他に意見はないか。
- 委員 フォーラムでは、転出者アンケートの結果は提示したのか。
- 事務局 転出者アンケートは、実施が12月までであったため、その結果はフォーラムに提示できなかったが、市民アンケートの一部内容については、フォーラムにて提示したうえで意見をもらった。
- 委員 フォーラムで出された意見を見てみると、例えば産業経済分野で出された意見で、転出された方が求めているものと、市内に残っている市民の方が伝えたい米沢の姿に齟齬が生じているように感じる。転出された方、市民の方、それぞれの意見を踏まえ考えていくことが重要だ。
- 事務局 補足になるが、先程大学生アンケートでは、約8割の大学生が県外出身であることを説明したが、高校生アンケートでは、約3割が市外から通っている高校生になっている。高校生については、市内在住・市外在住の方も、暮らしやすいという意見が多くなっている。
- 委員 資料1 4Pの表2-5-1を見ると、高校生に比べ市民の方が、暮らしやすいと回答している人が少ない。大人になると暮らしにくいと感じるようになるというのは、問題ではないか。
- 副市長 約3割の市外在住高校生は、近隣市町村から来ているため、置賜の中心都市である米沢市を暮らしやすいと評価している可能性が高い。それが、高校生が暮らしやすいと回答した人が多かった理由の一つではないか。市外在住高校生については、市内高校生と区分して結果を見ることも必要だ。
- 委員 高校生の居住区分による差で、分かることは何か。
- 副市長 近隣市町村に比べ、映画館や本屋などが充実している米沢は住みやすいと評価されているのではないかとということだ。大学生は、都会を含めたより広い範囲の地域と比較するため、住みにくいと回答している人が多いのではないか。
- 会長 高校生アンケートで、住んでいる場所を項目として聞いているのであれば、クロス集計も活用して欲しい。
- 委員 先日、米沢有為会が開催した「地域未来を拓く若人フォーラム」を聞きに行き、置賜農業高校と米沢工業高校の生徒によるプレゼンテーションに非常に感銘を受けた。プレゼンテーションの表現力・内容等が素晴らしく、高校生の地域への強い思いが感じられた。高校生アンケートだけでなく、このような熱意ある高校生の意見もくみとって欲しいと思う。
- また、フォーラムに際し、高校生が執筆した論文の中には、自分にはない発想もあり驚いた。小国高校では、全国の過疎地域にある高校を集めてフォーラムを実施したようだ。その中で、成功事例として紹介されていたのは、過疎化

が進むある市町村において、あえて郡部の高校を残し、都心部の高校を廃止することによって過疎化にブレーキをかけた事例だ。そういった柔軟で新しい発想を市政に取り入れたり、アンケートの作り方等にも反映させたりすることが必要だと思う。

委員長 私もそのフォーラムは興味があった。内容について新聞等に掲載はあったか。最近、読売新聞に、当フォーラムの概要記事が少し掲載されていた。地方紙での掲載があったかについては分からない。都会への憧れを持った若者が流出してしまう中で、こういった機会に論文を執筆し、地域のことを考えた結果、地域へとどまってくれる若者もいるのではないか。

会長事務局 事務局の方では、こちらのフォーラムなどについて、情報収集していたか。フォーラム開催については聞いていたが、今のところ内容について情報収集ができてない状況だ。市でも米沢有為会の担当窓口があるため、そちらに確認してみたい。高校生アンケートについて、米沢に残らないという声が想像以上に多く驚いている。また、今回のアンケートにとどまらず、生の声を情報収集していきたいと考えている。

委員 アンケート内容を分かりやすくまとめていただき感謝する。ただし、市民・大学生のアンケート回収率が低いのは残念だ。回収率をあげるために、何か工夫等はしたのか。

事務局 市民アンケート、転出者アンケートについては、お礼状兼催促状を期限前に送付させていただいた。大学生アンケートについては、大学事務局を通じ配布してもらった。また、大学生が回答しやすいようにインターネットアンケートも併用し周知を図ったのだが、想定していた回収率に達しなかった。

委員 高校生アンケート結果を見て、10年後20年後は楽観できないなということがよく分かった。また、非常に内容が多岐にわたるため、どの部分に注目していくかが難しい。その中でも、地域への愛着が低いという結果が出ているのが気がかりだ。昔であれば、町内レベルでの結びつきが強く、自然と子供達も地域への愛着を育めた。少子高齢化が進み、これまで当たり前であった町内の結びつきが薄れていく中では、地域への愛着心も段々と薄れていくのではないか。それから、先程不妊治療の話が出たが、私自身も経験者としてその大変さはよく分かる。経済的な負担はもちろんだが、それ以上に、治療中は精神的な面で負担が大きい。市でも、不妊治療に対する補助金だけではなく、相談窓口を整備するなど、夫婦の気持ちに寄り添えるような精神的なサポート体制を構築してもらえればと思う。

委員 アンケートで、精神的ゆとりが重視されている結果が出ていたが、母親が育児と仕事を両立するなか、母親の精神的ゆとりがなくなっているようだ。その結果、母親の否定的な言葉や態度、またそういった虐待につながりかねない状況に、母親以上に子ども達が大変なストレスを感じている例も多い。

まちづくりフォーラムでも子育て支援が重要課題としてあげられていたが、そういった子ども達を守るためにも、母親のカウンセリングや精神的サポートができる専門的な人材育成が、今後の総合計画において重要になってくるので



はないか。

健康福祉部長

貴重なご意見に感謝する。市で不妊治療相談窓口があるか確認のうえ、もし相談窓口があるようなら、積極的にPRしていきたい。また、子育ての悩みについては、市だけでなく、関係機関も含めた窓口がある。こちらについても、今後市民の皆様への周知に努めたい。

委員  
事務局

フォーラムの市民参加者について、年齢・男女比等を詳しく教えて欲しい。公募者については、年齢層は、10代（短大生）から70歳を超える方になっている。全部で38人の市民に参加してもらったが、男女比は半々程度であった。市のプロジェクトチームについては、男性の方が多かった。公募推薦ともに、全員が市内在住の方である。

委員

参加者の構成によって、内容が変わってくると思って伺った。まちづくりフォーラムの方が生活と密着した内容で話し合いをしたと聞いているが、各種アンケートとまちづくりフォーラム、両方の意見をうまく取り入れていく必要がある。

仕事柄、高齢の方と付き合うことが多いのだが、高齢者の中でも、特に単身高齢者について、何か市で支援をしているのか、よく知らないので教えて欲しい。

健康福祉部長

高齢者支援の中で、当然単身高齢者についても支援を行っている。単身高齢者の見守り支援体制にも取り組んでいる。

委員

今後、施設に入れられない高齢者が増えていく中で、後期5箇年計画にも単身高齢者への支援が盛り込まれていくのではないかと思います、お聞きした。

会長

それでは、議題（4）「その他」にうつる。

事務局

資料4「米沢市まちづくり総合計画後期基本計画スケジュール」に基づき説明

- 次回審議会は、3月16日（月）14時から、置賜総合文化センター203研修室にて開催する。内容は、施策の中身について審議する。当初の予定では1・2章を審議する予定であったが、都合により、1・3章の審議に変更させていただきたい。1章は、挑戦し続ける活力ある産業のまちづくり、3章は、子育てと健康長寿を支えるまちづくりとなっている。

事務局

参考資料2「米沢市総合計画審議会に係る意見・質問票」に基づき説明

- 参考資料2は、前回の審議会後に委員より質問があった事項について、関係課での回答を記載したものなので、内容をご確認いただきたい。
- 今後も、委員から質問等があればこのように回答させてもらう。

（委員より追加質問）

委員

働きたくても働けない人が、市内には100名程いる。その半数程度が、不登校を経てそのまま働けない状況になっているようだ。そういった中で、不登校児を減らすことは、重要だと思う。回答の中で、適応指導教室の継続利用者数について公表はしていないと記載されているが、税金を使用している以上、米

沢市内の不登校児童数や、適応指導教室の継続利用者数をきちんと公表し、費用対効果をはっきりさせることが大切ではないか。

教育指導部長

不登校の定義は、年間 30 日以上学校を欠席することである。そのため、月 3 日程度休めば、不登校に該当してしまう。継続した適応指導教室の利用率が、小学校で 11.1%、中学校で 7.6%と回答したが、これは、完全に学校に来ていない児童数に対しての割合ではなく、不定期に学校を欠席している児童数も含めた不登校児に対する割合であることをご理解いただきたい。

また、不登校児童や適応指導教室利用児童の具体的な数値を公表しないのは、該当する児童生徒への影響を考慮のことである。これらの数値は、プラスの印象を与えるものでなく、人数も少ないため、はっきりと何人利用しているということを発表してしまえば、個人が特定されてしまう可能性もある。確かに、費用対効果の検証等で数値を公表することは有効かもしれないが、敏感になっている子ども達への影響を考えたうえで、数値の公表については慎重な対応とさせてもらいたい。

会 長

ではここで、本日の審議を終了する。次回からは、各論に入るのでよろしく願います。なお、本日の内容に関する質問等は、メール等で構わないので送付して欲しい。

司 会

今回は、3月16日（月）14時からを予定している。正式には、後日別途案内させてもらう。以上をもって、本日の審議会を終了する。